抗体カクテル投与後の症状の変化

資料　1

※令和３年10月31日までの投与実績410人について実施医療機関へ調査を行いました。
本資料は回答のあった265人についてのとりまとめ結果です。

(N＝265)

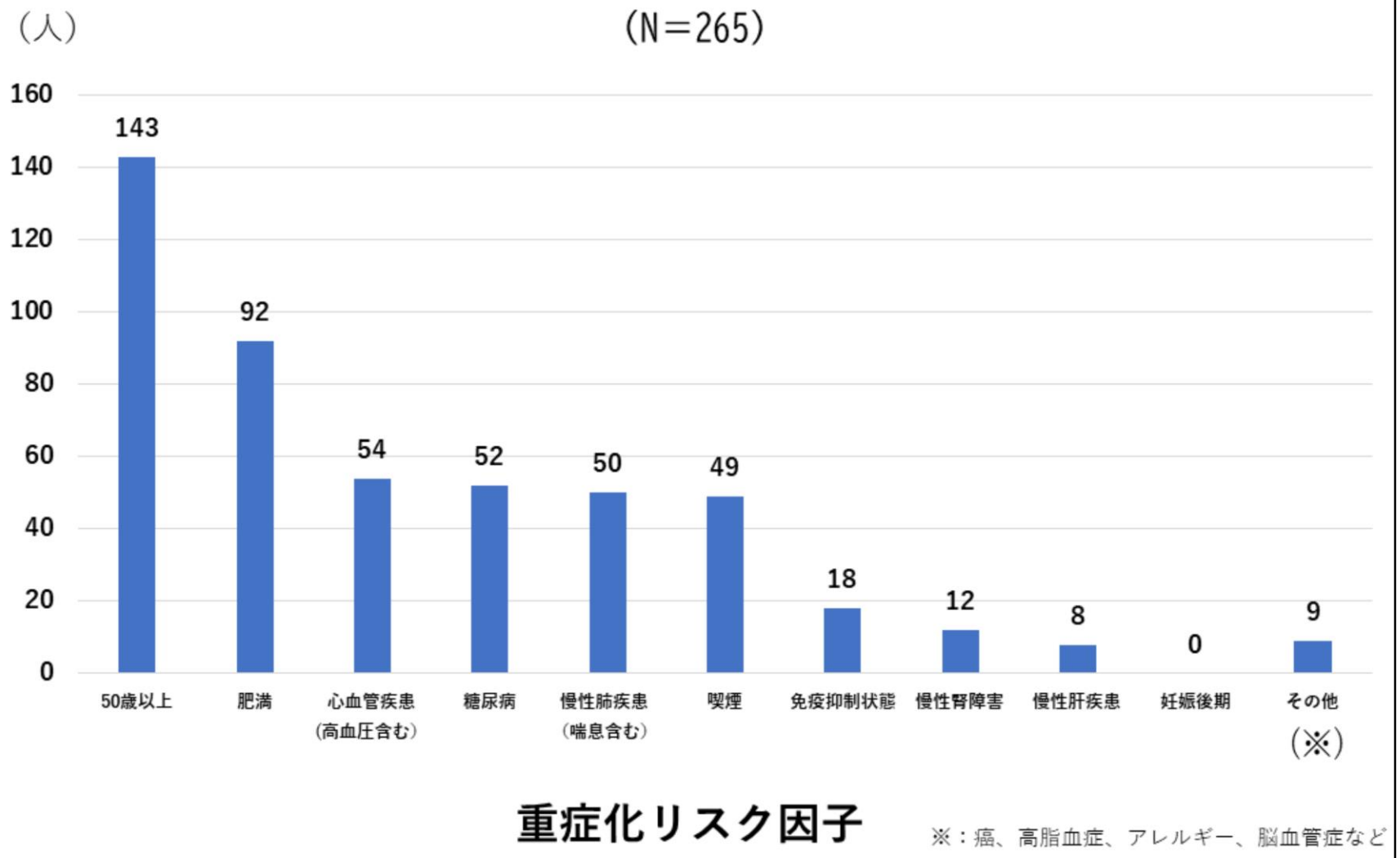
- 改善、238人、89.8%
- 一時悪化、21人、7.9%
- 症状持続、3人、1.1%
- 退院のため不明、3人、1.1%

最終的には全員退院し、重症や死亡に至る方はいなかった。

〇投与を受けた方の**89.8%で症状の改善**が見られました。一方で、7.9%の方が一時的な症状の悪化がありましたが、**最終的には全員退院し、重症や死亡に至る方はいませんでした**。

患者の重症化リスク因子の内訳

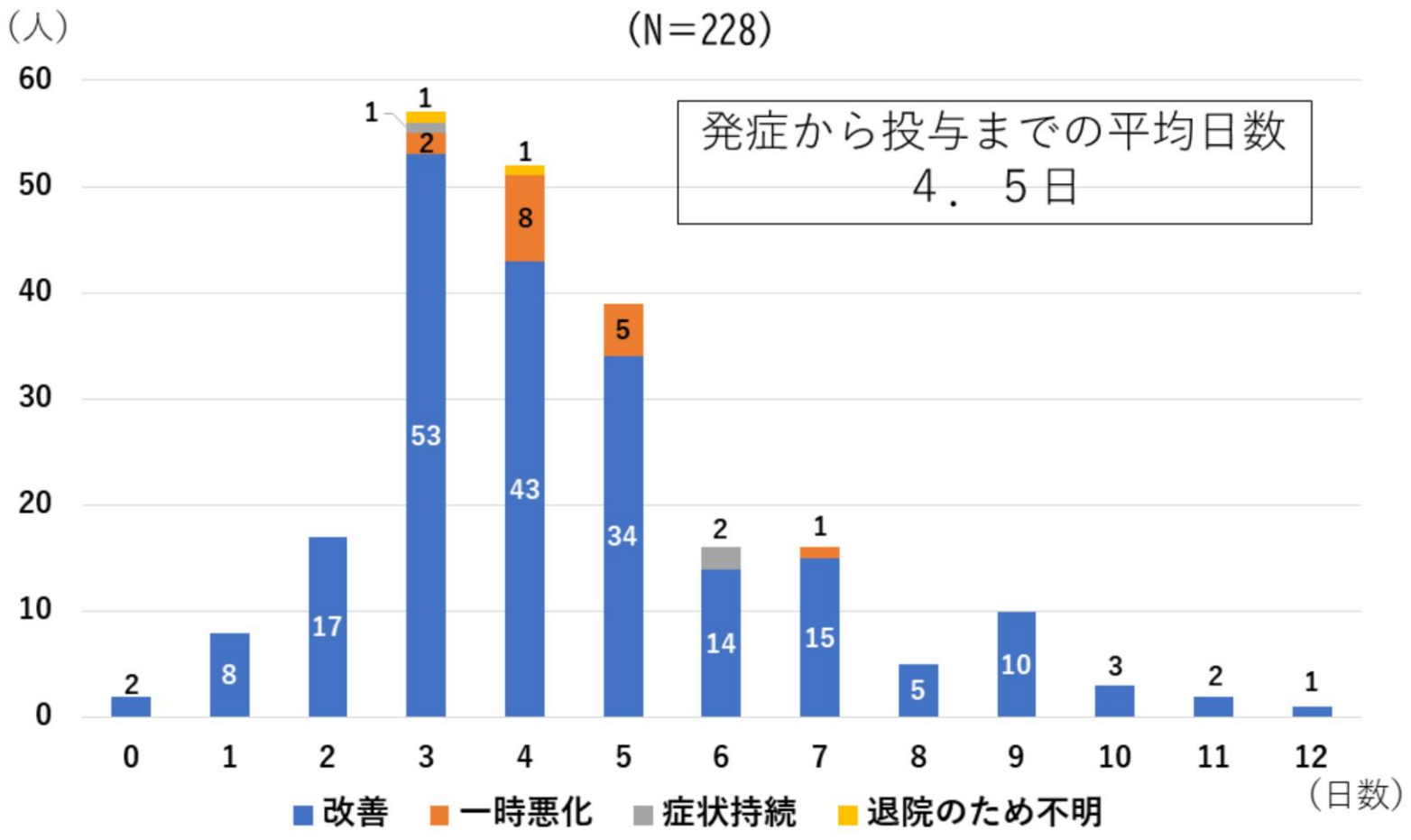
資料　2



〇患者の持つ重症化リスク因子は、50歳以上（143人）が一番多く、次いで肥満（92人）、心血管疾患（高血圧を含む、54人）、糖尿病（52人）、慢性肺疾患（喘息を含む、50人）、喫煙（49人）が多い傾向が見られました。結果としてこのようなリスク因子がある方が重症化せずに済んでいるものと考えられます。

発症から投与までの日数と症状の変化

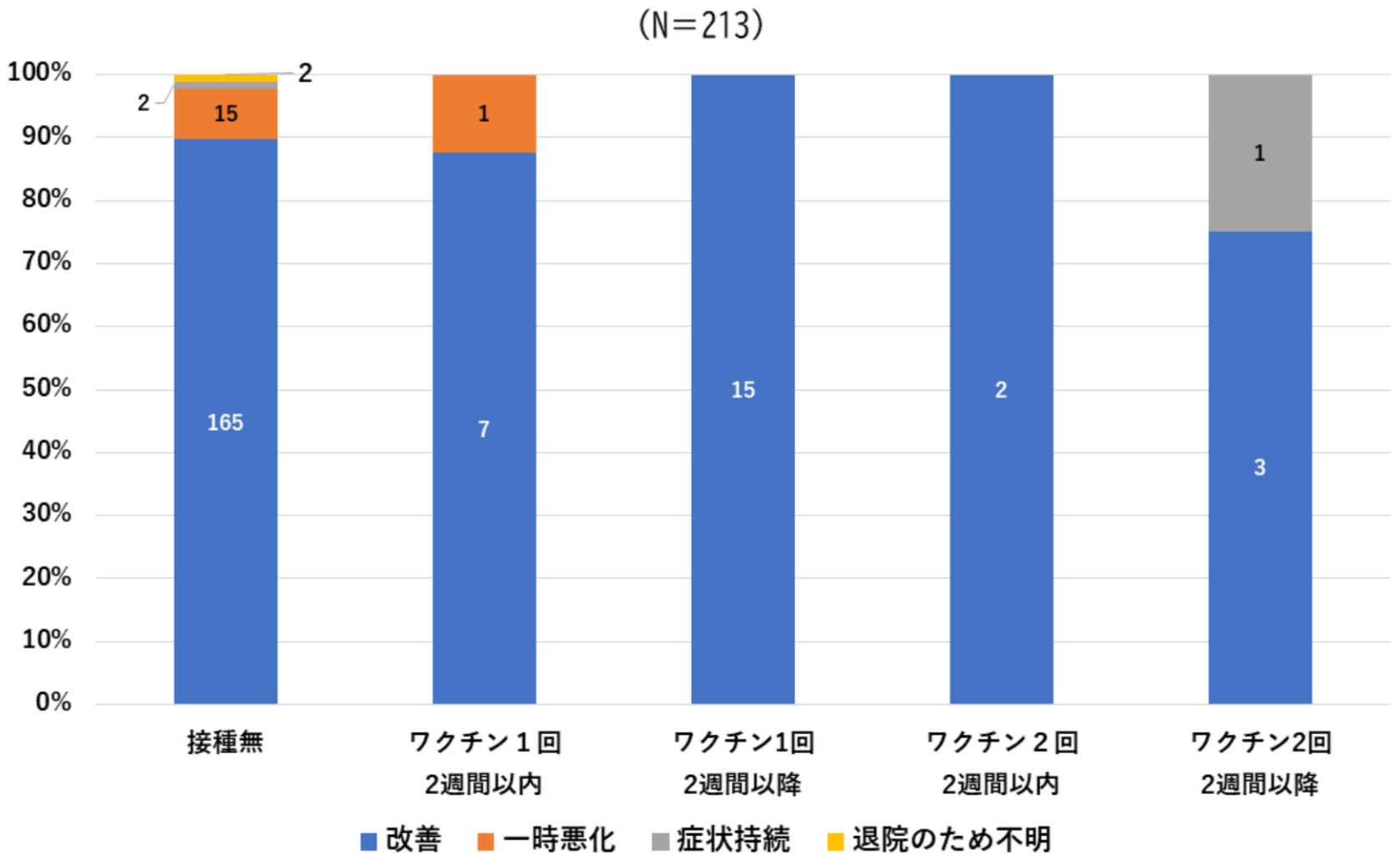
資料　3



〇多くの患者に対し、症状発症から投与までは３～５日、平均では4.5日と、**発症から早い段階で投与ができている**状況でありました。

ワクチン接種状況と症状の変化

資料　4



〇当初、ワクチン未接種の方を中心に抗体カクテルを投与している状況でしたが、抗体薬の確保ができてからは、ワクチン接種している方にも投与しております。